

“国連生物多様性の10年”の普及啓発を目指す  
『生物多様性アクション大賞 2014』締切迫る！(9/1 締切)  
あなたの活動を「生物多様性」につないでみよう

2011年から2020年までの10年間は、国連の定めた「国連生物多様性の10年」(※1)です。これを受け、国内のあらゆるセクターの参画と連携を促進し、生物多様性の保全と持続可能な利用に関する取り組みを推進するため、「国連生物多様性の10年日本委員会」(UNDB-J)が2011年9月に設立されました。

「生物多様性アクション大賞」は、UNDB-Jが推進している「MY行動宣言 5つのアクション」(※2)を切り口に、全国各地で行われている生物多様性の保全や持続可能な利用につながる活動を募り表彰致します。具体的には、「たべよう部門」、「ふれよう部門」、「つたえよう部門」、「まもろう部門」、「えらぼう部門」の5部門で「優秀賞」を選定し、さらに「優秀賞」受賞者によるプレゼンテーションを経て「大賞」を選定します。

活動規模の大小を問わず、あらゆるセクターに「生物多様性の自分ごと化」を促し、「国連生物多様性の10年」の広報・教育・普及啓発(CEPA)活動の一つとして、またCOP10で採択された“愛知目標”の達成の一助として実施します。本年は第二回目の開催となります。

記

■開催概要

「生物多様性アクション大賞 2014」

応募期間:2014年5月22日(木)~9月1日(月)

応募方法:「生物多様性アクション大賞」特設ページより応募

URL: <http://5actions.jp/award/>

内容:生物多様性の保全や持続可能な利用に取り組む団体・個人から、下記部門ごとの取り組みを募集いたします。



- 《たべよう》 地元でとれたものを食べ、旬のものを味わいます。
- 《ふれよう》 生の自然を体験し、動物園・植物園などを訪ね、自然や生きものにふれます。
- 《つたえよう》 自然の素晴らしさや季節の移ろいを感じて、写真や絵、文章などで伝えます。
- 《まもろう》 生き物や自然、人や文化との「つながり」を守るため、地域や全国の活動に参加します。
- 《えらぼう》 エコマークなどが付いた環境に優しい商品を選んで買います。

■表彰:大賞(優秀賞から1組)－賞金30万円＋副賞 優秀賞(各部門1組)－賞金5万円＋副賞 復興支援賞－賞金20万円＋副賞 そのほかグリーンウェイブ賞、セブン-イレブン記念財団賞。詳しくはホームページをご覧ください。

■対象となる活動

日本国内を拠点とする活動であること。

(注)政治活動や宗教の布教を目的として活動する団体や、公序良俗に反する活動は除く。

■スケジュール

募集期間 5月22日(木)～9月1日(月)

審査期間 9月～10月

授賞式 11月30日(優秀賞受賞者によるプレゼンテーションにより大賞決定)

■実施体制

主催:国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)

共催:一般財団法人セブン-イレブン記念財団

協賛:前田建設工業株式会社、セキスイハイム、森ビル株式会社

特別協力:公益社団法人国土緑化推進機構、経団連自然保護協議会

協力:富士フイルム株式会社

後援:朝日新聞社、毎日新聞社、環境 goo

事務局:一般社団法人 CEPA ジャパン

審査委員長:吉田正人(筑波大学教授)

審査委員:足立直樹(レスポンスアビリティ)、小野弘人(セブン-イレブン記念財団)、梶谷辰哉(国土緑化推進機構)、川廷昌弘(CEPA ジャパン)、坂田昌子(UNDB 市民ネット)、道家哲平(日本自然保護協会)、星野智子(環境パートナーシップ会議)、堀上勝(環境省)

一般からのお問い合わせ:

生物多様性アクション大賞事務局 担当:関根

Tel: 03-5459-2108 E-mail: award@cepajapan.org

報道関係者からのお問い合わせ:

生物多様性アクション大賞 広報事務局 (サンカルパ内) 担当:梶原

E-mail: miki@samkalpah.co.jp

【参考】

※1 国連生物多様性の10年とは

2011年から2020年までの10年間は、国連の定めた「国連生物多様性の10年」です。2010年10月に名古屋で開催された生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)で採択された、生物多様性保全のための新たな世界目標である「愛知目標」の達成に貢献するため、国際社会のあらゆるセクターが連携して生物多様性の問題に取り組むこととされています。

※2 MY 行動宣言とは

国民一人ひとりが生物多様性との関わりを自分の生活の中でとらえることができるよう、「国連生物多様性の10年日本委員会」(UNDB-J)は、「たべよう」、「ふれよう」、「つたえよう」、「まもろう」、「えらぼう」の5つのアクションの中から自らの行動を選択して宣言する「MY 行動宣言」の実施を広く呼びかけています。

※ 昨年度の受賞活動(<http://5actions.jp/award2013/announce/>)

【審査総評】 第1回目の生物多様性アクション大賞には企業・自治体・NPO などからの幅広い応募を頂き、全国各地でこれほど「生物多様性」に関連した活動があることを知りました。今年も地域発の思いもかけなかったアプローチが発掘され、それぞれの取り組みの今後の発展を期待します。

### ■大賞

【たべよう部門:地元でとれたものを食べ、旬のものを味わいます。】

「滋賀・琵琶湖の伝統食作り」／

アイキッズ～エコアイデアキッズびわ湖～（滋賀県草津市）

子どもたちが、滋賀の伝統食作りを通して、琵琶湖めぐみに気づき、郷土に愛着や誇りを持つことをねらいにしています。また、人と人とのつながりを大切にして、新たな食文化の創造にも挑戦しています。



### ■優秀賞

【ふれよう部門:生の自然を体験し、動物園・植物園などを訪ね、自然や生きものにふれます。】

「流域住民による生物多様性の保全と教育が一体となった取り組み」／雨ふる大地の水辺保全ネットワーク（大阪府）

活動のモットーは「環境保全と環境教育の一体化」です。小学校での環境教育教材の開発と実践を通して興味をもった子どもが実際の保全活動に参加し、活動を通して成長し、保全活動のリーダーに育っています。



【つたえよう部門:自然の素晴らしさや季節の移ろいを感じて、写真や絵、文章などで伝えます。】

「環境出前授業」／株式会社島津製作所え～こクラブ（京都府）

絶滅危惧種を題材にしたオリジナルカードゲーム「bidi」を用い、小学校への環境出前授業を行っています。より身近な問題として生物多様性の重要性を学んでもらう活動です。



【まもろう部門:生き物や自然、人や文化との「つながり」を守るため、地域や全国の活動に参加します。】

「高安の里地・里山の伝統的な水質浄化法“ドビ流し”を応用した生物多様性の保全」／

NPO法人ニッポンバラタナゴ高安研究会（大阪府）

高安の里地・里山の伝統的な農業技術、溜池浄化法“ドビ流し”（池干し）の効果を応用して、アオコの異常発生を抑制し、外来種を防除することで、在来魚のニッポンバラタナゴを含む生物多様性を保全する活動です。



【えらぼう部門:環境に優しい商品を選んで買います。】

「フェアウッド・パートナーズ」／

フェアウッド・パートナーズ（東京都）

フェアウッドとは、地域材、認証材など伐採地の環境や社会に配慮した木材・木材製品のことで、木を使う人が「森を壊さない木材の選び方」を実行することで木の流れを変え、世界の森林を守ることを目的としています。

